

「粘り強い構造」の海岸堤防により津波や高潮から地域を守る

－鹿島港海岸平井地区の海岸保全事業－

事業概要

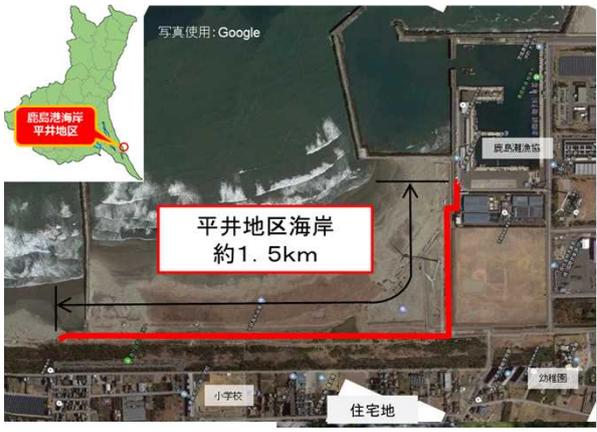
県では、東日本大震災以降、津波被害の実態や海岸背後地の状況（住宅地や重要インフラの有無）、既存堤防の健全度などを踏まえ、優先度が高い地区から順次、海岸堤防の再構築を進めてきました。背後に小学校を含む住宅密集地を控えた鹿島港海岸平井地区（鹿嶋市）では、今後想定される津波（L1津波※¹）や高潮・高波（50年確率波※²）に備えて、延長1.5kmの強靱な海岸堤防を整備しました。新しい海岸堤防は、東日本大震災の教訓から、想定（設計）を超える津波が襲来した場合でも、堤防が破壊しにくい工夫を施した「粘り強い構造」となり、より高い安全度で地域が守られます。

- ※1 数十年から百数十年の頻度で発生する津波（海岸堤防を設計する上で対象とする津波）
- ※2 堤防寿命の50年間で発生する確率がある高波

<事業概要>

○期 間：平成28年度～令和4年度

○内 容：海岸堤防の新設（主な構造形式）傾斜型（延長）約1.5km（堤防高）T.P.+6.0m



粘り強い構造とは

津波が堤防を越えた場合であっても、堤防が破壊するまでの時間を遅延させ、浸水被害の軽減や避難時間を確保するもの



ポイント①

法尻部の強化

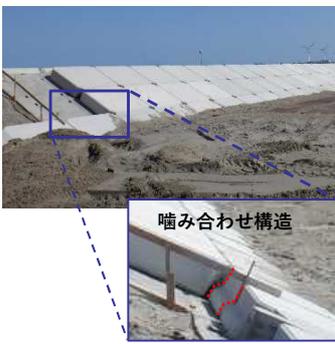
越流によって生じる洗掘からの被災を生じにくくする。



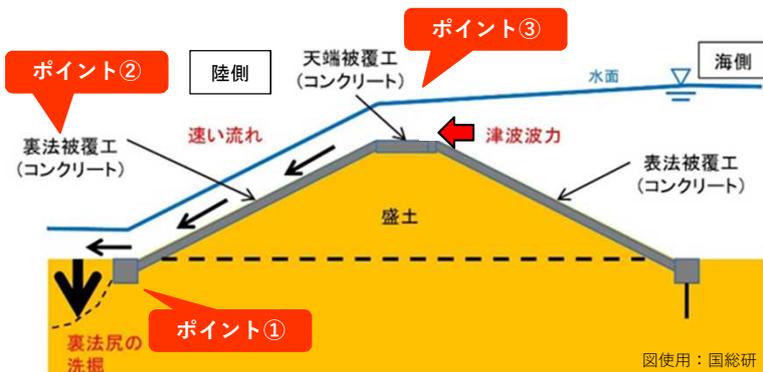
ポイント②

陸側（裏）法面の補強

被覆ブロックの連結を強くし津波の水流に耐える。



想定（設計）を超える津波襲来に備えた補強ポイント



ポイント③

法肩と天端部の一体化
津波の高い流れに耐える。

